

オーディオに目覚めたのは、中学2年の夏でした。叔母の住む鬼怒川温泉に遊びに行き、初めてアンサンブルステレオを見て、レコードを聴いた時の驚きと感激は今でも鮮明に憶えています。その後の私の音楽遍歴は、それぞれの時代に流行った音楽と同期しています。ベンチャーズに始まり、昭和39年頃は舟木一夫の青春歌謡にはまっていました。社会人になった頃、世の中はフレンチポップスブームでした。ポールモーリア、レーモンルフェーブル、フランクプールセル、のLPレコードを数えきれないほど買いました。今聴くとヒドイ録音です。その後はフォーク、Jポップと聴いてきました。50代ぐらいからジャズ、クラシックを聴き始めました。

振り返ってみると自分の音楽趣味は広く浅く、というタイプのようなのです。今、主に聴いているのは、ジャズでは録音の良い現代のピアノトリオ、クラシックはバイオリン、ハープシコード、オルガン等のシンプルな曲です。それと歳をとったせい、昭和30年前後の古い歌謡曲に魅力を感じています。

そんな中で、私が大切にしていることは、音楽ファンであることです。カッコいい演奏、哀愁のあるメロディー、心に沁みる詞をジックリ味わいたいと思っています。

それと同時に、できれば良い音で聴きたいという思いがありました。今までいろんな方との音楽談議の中で解ったことがあります。それは音は耳で受けて、脳で聴くのですが、超高性能イコライザーが脳のなかに備わっていて、録音に関係なく、素晴らしい音楽を聴ける人がいることです。残念ながら、私の場合は神様がそのイコライザーを付け忘れたようです。

そこで良い音で聴く為にコツコツ取り組んできたのが、オーディオシステムの環境改善という問題です。この辺の問題の中には、俗に言うオーディオ都市伝説的なものもあるようですが、今までの経験、知識を基に「独断と偏見」でやってまいりました。また判断に迷った時は「信ずる者は救われる」的なパターンもありかなと思っています。それと私が住宅関係の仕事に従事していることで、いろんな対策が比較的やり易い状況であったことも有ります。これまでやってきた対策をわかりやすく書いてみました。



[オーディオシステムの環境改善]

I 電源環境の改善

近年、冷蔵庫や電子レンジ、パソコン、エアコン、ホットカーペット等からのノイズが家庭内の電源に混入していることが言われています。これはオーディオにとって非常に悪い状況であると思われます。

①オーディオ専用回路の設定

分電盤から専用回路でオーディオルームまでFケーブル2・6で施工。

(参考・Fケーブルの容量)

1・6 - 600V × 15A

2・0 - 600V × 20A

2・6 - 600V × 32A

②オーディオ専用コンセントの設定

オヤイデ SWO-DX-2 セット(4口)

(一般的なコンセントはFケーブル2・6は使えないです)

③主な機器はオーディオ専用コンセントから直接電源をとる

(アンプ、レコードプレーヤ、CDプレーヤ等)

II セッティングの改善

基本的な考えは、振動対策としての各機器の最も安定した設置です。振動には、床からの振動と、空気中から音圧を受ける振動の両方が考えられます。それとスピーカーの最良の配置法です。



① 全機器の平面配置(床置き)と大理石ボード、真鍮スタビライザー活用

大理石ボードとフローリングの間には、ウレタン製の緩衝材を使用する。

また大理石と真鍮スタビライザーの間にも、極薄の緩衝材を使用する。

② スピーカーセッティングの改善

スピーカーの型式、仕様、また部屋の形状等の違いで一概にはいえませんが、基本は正三角形理論?があるようです。そこから聴感を基に調整していく感じでしょうか。それとスピーカーも前述の機器と同様、重量物の上にガッチリとガタのないように設置することがポイントです。

III 各種ケーブルの選択

ケーブルによって音が変わることを認めない方や分からないという方がいらっしゃいます。私の場合は、変わることを実感しています。しかし、その変化が良い方向なのかどうかの判断は難しいことです。

主なケーブルの種類は電源用、RCA、XLR、SP用、他があり、導体や絶縁材の材質、構造等の違いで数限りなくあります。ある程度評判の良いものの中から、聴感により選択するような感じでしょうか。あまり神経質にならない方が良いと思います。

IV 室内音響の改善

この分野に関する文献、理論、実例、等は多くあります。しかし、いざ自分のオーディオルームに応用しようとする、と、諸々の設定条件が合わないことが多く、参考程度にしかありませんでした。結局、音楽を聴き、試行錯誤しながら進めていくような感じでした。

基本方針としては、ライブよりはデッド方向でまとめることにしました。自分の好みということもありましたが、そのほうがまとめ易いのではないかという判断がありました。

具体的な方針は、反射、吸音のベストバランスを追求した、オーディオルームの床、壁天井の仕上材の選定と、定在波対策として拡散部材の作製と適正な配置を目標にしました。

詳細な対策、作業等は以下です。

- ① 床の仕上材(全面)栗無垢材フローリング仕上(下地に合板を使って補強)

リスニングスペースの周囲は、吸音目的で絨毯を上敷きしました。

- ② 壁の仕上材 SP 背面の壁を反射目的で、スプルス無垢材タテ貼り仕上。(下地にプラスターボードを使って補強)

その他の壁3面は、中程度の吸音目的でウレタン製穴空き材仕上。

(絨毯敷込時のクッション材で使用する部材)

また、リスナーの背面に特殊吸音部材を設置。

(八幡ネジ・サウンドガード 1800×900×50)

- ③ 天井の仕上材(全面)

壁同様、中程度の吸音目的でウレタン製穴空き材仕上。

- ④ 定在波対策

自作拡散格子を左右 SP の間と両コーナー廻りに設置。また拡散目的で木製小角材を SP 背面のスプルス材の上に 120mm ピッチで取付け。



壁・天井吸音材ーウレタン系穴あき材

同様に天井にも 450mm ピッチで取付。(インテリアデザインも考慮)

以上の対策の結果、自分の感想としては、音楽を楽しめる環境になっていると思っています。(80点ぐらいかな?)

◎ サウンドに関する嗜好は、人により様々でかなり異なっていることを、いろんな場面で感じています。数々の対策を施した私のオーディオルームも、自分の好みのサウンドになっていると思います。

また、AAFCに入会してから多くの方のオーディオシステムで音楽を聴かせて頂きました。その中には私のシステムとは異なるサウンドでしたが新鮮に感じる事が多々ありました。

最も印象に残っているのは、真空管アンプでタンノイを鳴らしていらっしゃる会員のお宅を訪問した時のことでした。たしか出力管が211で、カートリッジはオルトフォン SPU の古いタイプだったと思います。いつも聴いている由紀さおりの若い頃のレコードをかけて頂いた時のことです。

おおらかで、余裕たっぷりに、また十分な量感の低音を伴ってイントロが始まり、そして実在感のある透き通るような声で由紀さおりが歌い出しました。私は思わず息をのみ、そしてウツリと聴き惚れてしまいました。レコードには、こんな良い音が入っていたのかと、改めて感じました。いろんな対策を考える時、この時の感動を基準にしたのはいうまでもありません。

○ オーディオシステムの環境改善についてご意見、感想、提案等ございましたらお寄せいただければ幸いです。



我孫子オーディオファンクラブ <http://www.aafc.jp/> 2020年 5 月号

編集責任者 鈴木道郎